

即席麺製造技術、
プレス焼成技術を応用し
新しい菓子を開発

株式会社 おやつ カンパニー

三重県
津市一志町田尻420

1948年(昭和23年)設立
059-293-2233

<http://www.oyatsu.co.jp>



代表取締役
松田 好旦

日本で開発された即席麺製造技術を独自に応用し新しいスナック菓子を開発してきたメーカー。主力の「ベビースターラーメン」は50年のロングセラー。最近ではプレス焼成技術を応用し新しい製品を開発し独自の世界を創造。

日本で生まれた即席麺製造技術を活かす

ポテトチップスを中心としたスナック菓子は技術も製品も海外から移入されたもの。その中で、日本で生まれた即席麺製造技術を活かし完成させた麺形状スナック菓子。それを主力商品とし独自の路線を追求してきた。現在は様々な食シーンや幅広い顧客に応えるため、様々な形状や食感を表現した麺形状スナック菓子を生産できる独自技術を開発、製品化に成功している。

地元のプレス焼成技術をさらに発展

愛知県の地場産業ともいえるいわゆる「えびせん」は地元で開発されたプレス焼成技術によって大量生産が可能になった。そのプレス技術をさらに研究、発展させた結果、従来技術では不可能であった薄いえびせんべいの開発に成功。さらにプレス技術とパン素材を融合させ、パン素材の新しい菓子「フランスパン工房」の開発に成功しヒットさせた。

独自の技術と製品へのこだわりと企業風土

大切なのは技術においても製品においてもオリジナリティでありオンリーワンであること。それにこだわってきたことが新しい技術や製品を生み出してきた。そして、独自のおやつ文化の創造を実現してきた。そのために人材育成を最重要視。常に新しいことにチャレンジし成功するまで諦めない粘り強い企業風土を育ててきた。



即席麺製造技術のスナック菓子



プレス焼成技術のスナック菓子



久居工場

伊藤製油株式会社



代表取締役社長
秋田 政継

三重県
四日市市末広町16-41

1946年(昭和21年)設立
059-352-5101

<http://www.itoh-oilchem.co.jp/>

ヒマシ油系ポリウレタン でプリント基板を保護

天然油脂であるヒマシ油を原料とし、家電製品等のプリント基板を保護被覆する電気絶縁封止材用ポリウレタン樹脂を開発。これまでにない高性能、環境対応、低コストで高い評価を得、同分野で高いシェアを獲得。

ヒマシ油専門メーカーが新たな高性能製品を開発

近年のデジタル化に伴い家電製品へのプリント配線基板採用が急速に広がっているが、家電メーカーからは絶縁不良による故障対策の要求が高まり、プリント基板の保護被覆材の開発が強く求められていた。従来の樹脂では、性能面、コスト面の問題をクリア出来ない中、同社はヒマシ油系ポリウレタンで保護被覆材の高機能化（電気絶縁性、可とう性、耐摩耗性、低温硬化性、難燃性）を実現、特に水回りの家電（電気洗濯機、温水便座、食器洗浄機等）に幅広く採用され、プリント基板被覆材の分野で高いシェアを獲得している。

高性能が要求される電装部品にヒマシ油系ポリウレタンを採用

自動車、船舶等の乗り物の高機能化、高性能化、快適性の要求が強まる中、これらに採用される電装部品の点数も増加し、多様化が進んでいる。電装部品に使用されるプリント基板、センサー・コイル部品などにも保護被覆材が必要で、その使用環境の特殊性から家電以上の高機能化が求められていたが、更なる研究の結果、従来より耐熱性、耐水性、低温性に優れたポリウレタンを開発。自動車メーカーの電装部品にも本格採用され、高い評価を得ている。

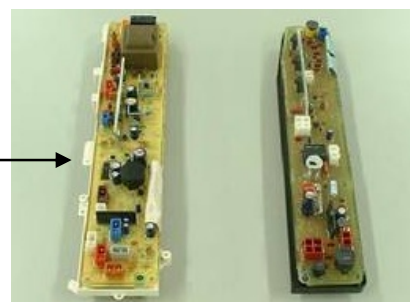
時代の流れに沿った環境に優しい商品の開発

CO2対策での石油化学からの転換、VOC削減、生分解性向上の観点から、天然油脂であるヒマシ油には大きな可能性が広がっており、最近では、自動車シート用ウレタンフォーム分野で石油系からヒマシ油系への転換が進められ注目されている。ヒマシ油のトップメーカーである同社は、大学との共同開発等により、これらのニーズに対応した高性能製品を開発している。



ヒマシ（ヒマの種子）

基板上的の被覆樹脂が
ヒマシ油系ポリウレタン



プリント基板被覆材